

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		広聴事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	06 広聴の充実			目	02 広報広聴費
	施策(小)	01 町民からの相談体制の充実			大目	02 広聴事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	町民の苦情・相談窓口として関係団体と連携を図りながら対応。人権擁護委員と調停委員の共同で対応する「悩み心配ごと相談」を毎月開催。					
事業目的	町民の悩み心配ごとを解消するため					
事業の対象	町民					
実施結果	【実施結果】 人権擁護委員、調停委員や行政相談員で、多様な相談に対応する相談窓口を開設					
現状と課題	【現状と課題】 相談内容も多様化し、これまでの相談委員の知識だけでは難しい場合もある					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	2,422	45	45	44	44	44
国支出金	0	-	-	-	0	-
道支出金	1,000	-	-	-	0	-
地方債	0	-	-	-	0	-
その他	0	-	-	-	0	-
一般財源	1,422	45	45	44	44	44
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	2,422	45	45	44	44	44

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	相談所の開催回数	目標	回		14	14	14	14
		実績	回	14	14	14		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民の悩み心配ごと等について、専門性や広い知識、経験を持つ各種相談員が行う相談窓口は必要であり、町で行うことは妥当。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	専門知識等を持つ各種相談員の対応は町民にも安心して受け入れられている。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	適正な負担額である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き町民の悩み心配ごと等についての相談窓口を開設する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	美幌町各種相談員合同連絡会議において、意見交換、情報交換をするとともに連携を図ることとする。							

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		地域集会室維持管理事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 コミュニティ活動の促進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	02 コミュニティ施設への支援			大業	01 住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町集会室条例美幌町自治会活動運営等補助金交付要綱				経費区分	政策的経費
事業概要	地域集会室を関係自治会が指定管理者に指定し、町保有の集会室を効率的に維持管理を図る。また自治会所有の集会室を増改築・修繕する場合には補助金を交付して整備促進の支援を行う。					
事業目的	集会室の維持管理を適正に行いつつ長寿命化を図り、地域コミュニティ活動の建物に活用					
事業の対象	自治会					
実施結果	【実施結果】 21集会室に対し集会室維持管理委託料を支出。2集会室の修繕に対し地域集会施設整備補助金を交付。					
現状と課題	【現状と課題】 自治会所有の集会所も、比較的大きな修理が必要となっている					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	4,046	4,126	5,573	5,540	8,246	6,000
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	4,046	4,126	5,573	5,540	8,246	6,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	4,046	4,126	5,573	5,540	8,246	6,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	地域集会室	目標	数		21	21	21	21
		実績	数	21	21	21		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域コミュニティ活動の核となる施設であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	地域コミュニティ活動の核となる施設の維持管理は必要不可欠なものであり、有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	委託料、補助金の支出額は適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 21集会室に対し集会室維持管理委託料の支出、4集会室の修繕に対し地域集会施設整備補助金を交付。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 豊幌旭、昭野、高野、美富中央、の各自治会集会室の修繕のため増額			予算反映額 (概算)	2,673千円		現状維持
今後の改善点	公共施設等総合管理計画により、集会室施設を適正に維持管理する計画を図る。							

平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		国際交流事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	03 国際・国内交流の推進			項	01 総務管理費
	施策(中)	01 国際交流の推進			目	05 企画費
	施策(小)	02 友好姉妹都市を中心とした、地域間交流活動の充実			大事業	05 国際交流事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	友好姉妹都市ケンブリッジとの交流は、毎年ケンブリッジ高校と美幌高校との高校生短期交換留学事業を実施し、訪問団の交流は節目の年など数年に一度程度で実施					
事業目的	姉妹都市との地域交流により、将来のまちづくりに資する人材育成につなげる					
事業の対象	姉妹都市ケンブリッジと美幌の町民及び美幌高校生徒					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 高校生短期交換留学では、美幌高校生1名が留学。ケンブリッジからは姉妹都市調印20周年を記念し訪問団が来町。交流会や施設見学等で町民との交流が図られた。 【現状と課題】 今後、交流を継続、発展させていくためには、双方とも計画的に実施していく必要がある					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	720	374	1,047	702	907	907
国支出金	0	-	0	-	0	-
道支出金	0	-	0	-	0	-
地方債	0	-	0	-	0	-
その他	720	-	1,047	-	907	-
一般財源	0	374	0	702	0	907
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	720	374	1,047	702	907	907

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	高校生による友好姉妹都市間の交流	目標	人			2	2	2
		実績	人	2	2	1		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	人的交流として高校生短期交換留学が実績を重ねており、事業として妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	高校生短期留学については、将来のまちづくりに資する人材育成という点で有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	高校生短期交換留学については、負担額は適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き高校生短期交換留学事業を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減 ケンブリッジ訪問団来町に係る経費の減			予算反映額 (概算)	△140千円		現状維持
今後の改善点	高校生短期留学事業は、双方が無理をしないで継続できるよう推進していく。訪問団派遣は、関係者とも協議し計画的な交流事業の実施を検討する。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		くらし安全活動推進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 防犯対策の推進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	01 防犯・暴追など各活動推進			大事業	01 住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町くらし安全まちづくり条例				経費区分	政策的経費
事業概要	防犯や暴力団追放活動の推進を図り、自主的に行う各団体の活動と町が協働して取り組みを図る					
事業目的	町民自ら防犯・暴力追放活動の啓発に取り組み、町民が安全で安心した生活ができる環境を整える					
事業の対象	自治会連合会防犯部会、手作り出店実行委員会、防犯協会、暴力追放推進協議会					
実施結果	【実施結果】 各団体への負担金及び補助金を支出					
現状と課題	【現状と課題】 団体の公益性、主体的な活動を行うことが必要。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,788	4,746	2,019	2,019	2,319	2,319
国支出金	0	-	0	-	0	-
道支出金	0	-	0	-	0	-
地方債	0	-	0	-	0	-
その他	1,300	-	1,500	-	1,800	-
一般財源	488	4,746	519	2,019	519	2,319
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	1,788	4,746	2,019	2,019	2,319	2,319

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	町民全体への効果のために団体と広く関わる	目標	団体		4	4	4	4
		実績	団体	4	4	4		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	防犯や暴力団追放活動に関し、町が協働することは妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町民が安全で安心した生活が送られているという点で有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	各種団体が精力的に活動しており、補助金額も適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 4 団体への負担金及び補助金に支出					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 手作り出店実行委員会の負担金の増			予算反映額 (概算)	300千円	現状維持	
今後の改善点	団体に広く町民に効果的な自主的活動を促す。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		男女共同参画プラン推進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	09 男女共同参画社会の推進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	01 男女共同参画についての理解促進			大事業	01 住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町男女共同参画プラン推進委員会設置規程		美幌町男女共同参画プラン推	経費区分	政策的経費	
事業概要	町民への男女共同参画社会の理解を深めるため、男女共同参画プラン推進協議会が中心となり研修・講演会の開催を実施					
事業目的	プラン協議会が率先して啓蒙活動を進め、広く町民に男女共同参画社会を浸透させる					
事業の対象	美幌町男女共同参画プラン協議会					
実施結果	【実施結果】 補助金の交付及び人的支援協力					
現状と課題	【現状と課題】 人材育成のための研修事業の充実					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	47	42	130	130	55	55
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	47	42	130	130	55	55
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	47	42	130	130	55	55

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	補助団体数	目標	団体		1	1	1	1
		実績	団体	1	1	1		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民に男女共同参画社会の実現に向けた理解を深めることは必要であり、町が支援することは妥当。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	講演会等の啓蒙活動など、有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	プラン推進協議会に対する補助金であり、補助金額も適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 男女共同参画研修(女性プラザ祭)への参加及び男女共同参画に係る講演会(北海道女性プラザの後援)の開催に対し補助金を支出					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減 苫小牧市で開催された日本女性会議(全国会議)の旅費の減			予算反映額(概算)	△75千円		現状維持
今後の改善点	継続的に研修会への派遣や講演会開催により人材育成を図る。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		まちづくり活動奨励事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	02 まちづくり活動の促進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	03 まちづくり活動への反映を意識した研修の実施			大事業	01 住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町まちづくり活動奨励事業補助金交付要綱				経費区分	政策的経費
事業概要	地域課題の解決や地域活性化のため町民や団体が自主的に企画して取り組む活動に対し補助金を交付し、地域や町民の活性化につなげる					
事業目的	地域コミュニティ活性化や活力ある地域社会をめざす					
事業の対象	自治会、NPO法人、その他3人以上の町民団体					
実施結果	【実施結果】 1団体に対し補助金を交付					
現状と課題	【現状と課題】 申請件数が少ない					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	645	439	2,000	902	2,000	2,000
国支出金	0	-	0	-	0	-
道支出金	0	-	0	-	0	-
地方債	0	-	0	-	0	-
その他	625	-	2,000	-	2,000	-
一般財源	20	439	0	902	0	2,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	645	439	2,000	902	2,000	2,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	補助交付件数	目標	件			4	4	4
		実績	件	2	1	1		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	団体等から提案される事業計画等について、広く町民に還元され波及効果もある事業を審査会で審査しており妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	地域問題の解決、地域活性化のための事業活動であり、有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	事業後の効果については再度検証が必要な場合もあり。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 補助の周知を図り、対象事業に対し補助金を支出					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	補助のPR周知を図りながら、制度活用を広めていく。							



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		自治会連合会福祉部会補助事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	02 まちづくり活動の促進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	02 まちづくり団体による活動促進			大事業	04 自治会連合会福祉部会補
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町自治会活動運営等補助金交付要綱				経費区分	政策的経費
事業概要	自治会連合会福祉部会に補助金交付し活動を促し、地域福祉全般の向上実現を図る					
事業目的	自治会活動をとおして地域福祉全般の向上を図る					
事業の対象	自治会連合会福祉部会					
実施結果	【実施結果】 自治会連合会福祉部会へ補助金を交付					
現状と課題	【現状と課題】 一般住民が参加・理解しやすい福祉行事や活動を行うことが必要					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	52	65	65	65	65	65
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	52	65	65	65	65	65
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	52	65	65	65	65	65

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	補助事業団体数	目標	団体		1	1	1	1
		実績	団体	1	1	1		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域コミュニティの核となる自治会の部会に補助金交付することは妥当。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	地域福祉に関する活動に対する支援は有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	福祉分野は広範囲であり、部会活動の効果は高い。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 事業継続のため引き続き自治会連合会福祉部会へ補助金を交付					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	地域住民目線による福祉活動を継続、充実させていく。							

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		コミュニティ活動促進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 コミュニティ活動の促進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	01 コミュニティ組織や人材の育成と組織の活動支援			大事業	01 住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町自治会活動運営等補助金交付要綱美幌町自治会連合会等運営補助金交付要				経費区分	政策的経費
事業概要	自治会連合会及び単位自治会（67地区）の育成推進や活動しやすい環境整備を図る					
事業目的	地域コミュニティの活性化や活力ある地域社会を目指して、地域自治会活動の育成推進を図る					
事業の対象	自治会連合会・単位自治会					
実施結果	【実施結果】 自治会連合会及び単位自治会への補助金の交付や事業協力、人的支援を実施					
現状と課題	【現状と課題】 自治会役員の高齢化が今後の課題となっていく。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	4,778	5,671	6,148	5,978	6,599	6,800
国支出金	0	-	0	-	0	-
道支出金	0	-	0	-	0	-
地方債	0	-	0	-	0	-
その他	749	-	718	-	779	-
一般財源	4,029	5,671	5,430	5,978	5,820	6,800
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	4,778	5,671	6,148	5,978	6,599	6,800

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	町内の全自治会数	目標	団体		67	67	67	67
		実績	団体	67	67	67		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域コミュニティの核となる自治会を支援することは妥当。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	地域コミュニティに関する支援であるため、有効性は高い。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	自治会での事業については対象者が身近であり波及効果も高い。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 事業継続のため引き続き各自治会への補助金を交付					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 行事用テーブル、東町集会室のテーブル・イスの購入による増			予算反映額 (概算)	451千円		現状維持
今後の改善点	自治会連合会が各自治会の活動を尊重しながら、事業の進め方や方向性を調整図り、各自治会活動が円滑に展開できるようにする。また、組織のあり方も含め自治会連合会及び各自治会の将来像について検討を行う。							



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		地域集会室補修等整備事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	04 地域活力の基盤となる集会室の整備			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	00			大事業	01 住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	○		
根拠法令等	美幌町集会室条例美幌町地域集会施設整備補助金交付要綱				経費区分	投資的経費
事業概要	町所有の「地域集会室」を計画的に修繕・修理を実施して建物長寿命化を図り、地域のコミュニティ活動拠点として利活用する環境を整備					
事業目的	集会施設建物の長寿命化を図り、地域のコミュニティ活動を推める					
事業の対象	町保有の地域集会室					
実施結果	【実施結果】 集会室の修繕、東町集会室建替の実施設計委託を実施。					
現状と課題	【現状と課題】 各集会室とも老朽化が進んでおり、今後の維持管理に伴う修繕費の増が見込まれる。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	2,407	5,296	3,880	3,639	51,372	1,500
国支出金	-	-	0	-	0	-
道支出金	-	-	0	-	0	-
地方債	-	-	2,880	-	50,300	-
その他	-	-	0	-	0	-
一般財源	2,407	5,296	1,000	3,639	1,072	1,500
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	2,407	5,296	3,880	3,639	51,372	1,500

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	修繕件数	目標	件		2	2	3	3
		実績	件	3	4	3		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町所有の地域集会室を修理修繕するものであり妥当。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域コミュニティの核となる施設であり有効性は高い。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	地域集会室を修繕することにより、コミュニティの核を守ることとなり、効率は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 事業継続のため各集会室の修繕等を行う。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 東町集会室の建て替えに伴う予算額の増。			予算反映額 (概算)	47,492千円	現状維持	
今後の改善点	集会施設の長寿命化を図りながら、適正な維持管理に努めるため、計画的な維持管理を進める。							

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		防犯対策事業		グループ・担当名	まちづくりグループ住民活動担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	XX
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実			項	XX
	施策(中)	04 犯罪を防ぐ環境整備			目	XX
	施策(小)	01 夜間における防犯対策			大業	XX
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町くらし安全まちづくり条例				経費区分	投資的経費
事業概要	既存防犯灯等のLED化切替工事を実施することで、地域防犯の環境整備を図る。					
事業目的	地域の防犯灯整備を町内一斉に行い、地域の防犯予防の環境整備を図る					
事業の対象	町及び自治会					
実施結果	【実施結果】 防犯灯等の灯数等を調査する調査事業を実施。					
現状と課題	【現状と課題】 既存防犯灯等の老朽化が進んでいる。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	8,064	7,983	16,246	47,577
国支出金	-	-	8,000	-	0	-
道支出金	-	-	0	-	0	-
地方債	-	-	0	-	0	-
その他	-	-	0	-	0	-
一般財源	0	0	64	7,983	16,246	47,577
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	8,064	7,983	16,246	47,577

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	LED防犯灯設置数	目標	基			0	0	1,116
		実績	基			0	65	
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	防犯、交通安全等に必要である防犯灯について、各自治会から移管を受けた後、町が事業主体となるのは妥当。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	LED化により同程度もしくはそれ以上の照度が確保されるので有効性は高い。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	リース契約となるが、10年間での電気料金等を考慮すると非常に効率は高い。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 町内の防犯灯についてすべてLED化となるため、それを適切な維持管理をしていく。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 平成31年2月よりリースが開始されるため2ヶ月分のリース料、防犯灯等の支柱設置・撤去の費用の計上。		予算反映額 (概算)	16,246千円		現状維持	
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		交通安全事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	02 交通安全活動の推進			目	07 交通安全費
	施策(小)	01 交通安全啓発活動の充実			大事業	01 交通安全対策推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町交通安全指導員設置条例美幌町交通安全総合対策本部設置規程			経費区分	政策的経費	
事業概要	交通事故のない安全安心な町づくりを実現するため、交通安全を推進し、町民一人ひとりの意識高揚を図るとともに高齢者の交通事故防止のため、運転免許自主返納の促進を図るための支援を行う。 ・交通安全推進員1名、常勤指導員3名の賃金 ・一般指導員13名の報酬 ・交通安全指導車2台の諸経費					
事業目的	町内や町民による交通事故がない、安全安心なまちを目指す					
事業の対象	町民全般					
実施結果	【実施結果】 児童・生徒への街頭指導、交通安全教室の実施。住民に対する街頭啓発等の交通安全啓発活動を実施。					
現状と課題	【現状と課題】 交通安全啓発の参加者が固定され、また高齢化も進んできている。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	6,821	5,578	6,175	6,029	6,697	6,697
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,715	154	189	208	174	174
一般財源	5,106	5,424	5,986	5,821	6,523	6,523
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	6,821	5,578	6,175	6,029	6,697	6,697

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	交通安全運動総数	目標	件		110	115	115	115
		実績	件	108	111	122		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町も含め全町的な取組のため妥当					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	交通安全教育・普及啓発活動の推進については町の役割が大きく、継続的な活動を実施するために事業は有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	全町的な取組であり、町としての負担割合は適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き児童・生徒への街頭指導、交通安全教室を実施する。また、住民に対する街頭啓発等の交通安全啓発活動を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	協力団体と十分に調整を図り、効果的に教室・啓発を実施する							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		生活バス路線運行事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	05 公共交通の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 バス路線の充実			目	06 辺地対策費
	施策(小)	02 混乗スクールバスの効率的運用			大事業	01 生活バス路線等維持事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町地域公共交通活性化協議会規約			経費区分	投資的経費	
事業概要	町の混乗スクールバスの空き時間を活用して「多目的バス」を町事業や要綱に定めた町民団体の事業活動に運行使用する					
事業目的	町や関係団体が必要とする事業実施の移動手段として					
事業の対象	町及び関係団体					
実施結果	【実施結果】 町所有のバスを「多目的バス」として、原則無償で運行					
現状と課題	【現状と課題】 多目的バス利用の増加及びバス車両老朽化に伴う修繕費の増					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	6,485	8,302	8,948	8,908	9,815	9,815
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	327	198	1	342	1	1
一般財源	6,158	8,104	8,947	8,566	9,814	9,814
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	6,485	8,302	8,948	8,908	9,815	9,815

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	運行実績	目標	km		18,240	18,500	25,300	25,300
		実績	km	16,280	23,132	23,669		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町事業として実施しており妥当					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町が所有する混乗スクールバス等、未運行時間を利用して町の事務事業や福祉団体等の事業ために運行する。事務事業経費の節減					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業は町が実施し、バス運行は地元バス会社に業務委託しており、経費は適正である					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き町所有のバスを「多目的バス」として運行する。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 契約単価の増、利用距離の増のため予算額が増加			予算反映額 (概算)	867千円		現状維持
今後の改善点	多目的バスの利用は、原則要綱に沿い、役場業務と関係する利用に限ること等、利用者に理解と制度周知を図る							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		駅前バスターミナル維持管理事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	05 公共交通の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 バス路線の充実			目	06 辺地対策費
	施策(小)	01 バス路線の利便性の向上と利用促進			大事業	01 生活バス路線等維持事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	民間施設を借りた美幌駅前バスターミナルとして、バス利用者等の利便を図る					
事業目的	駅前バス利用者の利便を図る					
事業の対象	民間施設					
実施結果	【実施結果】 施設借り上げ及び維持管理の費用負担					
現状と課題	【現状と課題】 バスターミナルの利用者減少に伴い、バスターミナル設置のあり方の検討が必要					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	994	879	930	888	908	908
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	216	216	216	216	216	216
一般財源	778	663	714	672	692	692
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	994	879	930	888	908	908

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	適正管理度合	目標	件		1	1	1	1
		実績	件	1	1	1		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	公共交通の利便性向上、利用促進のため妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	バス利用者の利便性向上に有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	バスターミナルの設置のあり方を検討する必要がある。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き施設借り上げ及び維持管理の費用を負担					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	利用者、管理者からの利用に対する意見反映							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		交通安全関係団体支援事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	02 交通安全活動の推進			目	07 交通安全費
	施策(小)	04 交通安全指導体制の強化			大業	01 交通安全対策推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町交通安全推進団体補助金交付要綱美幌地区交通安全協会事業補助金交付要			経費区分	政策的経費	
事業概要	交通安全の各役割を担う団体に対して、町の助成と団体育成推進を図る。					
事業目的	団体の活動運営が推進される					
事業の対象	交通関係団体					
実施結果	【実施結果】 交通関係団体への補助金・負担金の交付と業務協力支援を行った					
現状と課題	【現状と課題】 飲酒運転撲滅や高齢者安全対策が問題となっている					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,050	710	1,050	1,050	1,050	1,050
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	1,050	710	1,050	1,050	1,050	1,050
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,050	710	1,050	1,050	1,050	1,050

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	団体数	目標	団体		4	4	4	4
		実績	団体	4	4	4		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	関係団体と全町的な取組のため妥当である。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	町、関係機関・団体・企業、地域からなる交通安全推進団体は、交通安全運動の中心となっており有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	全町的な交通安全運動を行う上で、各交通関係団体の活動への負担としては適正である。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き交通安全運動の継続・推進のため、交通関係団体へ負担金及び補助金を交付する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	活動情報を一緒に共有して、啓発計画においても、一緒に協働して関わりを持つなかで、実施していく。							



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		自治会連合会交通安全部会補助事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	02 まちづくり活動の促進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	01 暮らし安全まちづくり条例に基づいた実践活動の支援充実			大事業	02 自治会連合会交通安全部
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町暮らし安全まちづくり条例美幌町自治会活動運営等補助金交付要綱美幌町				経費区分	政策的経費
事業概要	暮らし安全まちづくり条例に基づく町民の交通安全意識の啓発活動の推進を図り、地域から交通事故や違反のない安全安心なまちづくりとするため。					
事業目的	自治会連合会交通安全部会の活動推進					
事業の対象	自治会連合会交通安全部会					
実施結果	【実施結果】 自治会連合会交通安全部会へ補助金の交付及び業務支援を実施					
現状と課題	【現状と課題】 交通安全部会を中心に地域ぐるみの交通安全活動を実施。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	250	250	250	250	250	250
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	250	250	250	250	250	250
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	250	250	250	250	250	250

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	交通安全啓発	目標	回		110	110	110	110
		実績	回	108	101	115		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	関係団体と全町的な取組のため妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	交通安全部会は、他の交通安全推進団体と共に交通安全運動の中心となっており有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業経費にかかる収入は、4分の3が自治会負担金で賄われ、地域ぐるみの活動に充てられており適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き自治会連合会交通安全部会へ補助金を交付すると共に業務支援を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		公共交通維持確保改善事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	05 公共交通の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	01 総合的な公共交通体系の構築			目	06 辺地対策費
	施策(小)	01 交通網形成における協議・検討			大業	01 生活バス路線等維持事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	○		
根拠法令等	地域公共交通活性化再生法道路運送法			経費区分	政策的経費	
事業概要	路線バスや乗合タクシーに対する赤字補てん補助により路線維持を確保					
事業目的	公共交通路線の路線維持					
事業の対象	美幌で路線運行しているバス・タクシー事業者					
実施結果	【実施結果】 町内路線を運行するバス会社・タクシー会社に補助金交付					
現状と課題	【現状と課題】 国は補助対象経費の上限額等の見直し等、補助制度のあり方を検討することとしている。また、国からは、生産性向上に向けた取り組みを行うよう要請されている。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	18,110	20,777	22,882	23,546	28,117	27,815
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	18,110	20,777	22,882	23,546	28,117	27,815
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	18,110	20,777	22,882	23,546	28,117	27,815

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	運行バス路線	目標	本			7	7	7
		実績	本	7	7	7		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	公共交通の路線を維持することは必要であり妥当					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	公共交通の路線を維持するための補助であり有効					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国からの補助もあり、経費は適正である					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 地域間幹線系統路線、地域内フィーダー系統路線、町単独補助路線に対し生活バス路線運行維持費補助金を交付					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 フィーダー系統の国の補助基準が下がったことや経常経費の増などにより予算額が増加。		予算反映額 (概算)	5,235千円		現状維持	
今後の改善点	国・道の補助が安定的に継続されることが、路線維持確保の前提であり、国の動向について情報収集する。生産性向上のための町の取り組みとして、「びほろバス交通マップ」を配布し、利用促進を図る。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		交通安全指導啓発強化事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	XX
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実			項	XX
	施策(中)	02 交通安全活動の推進			目	XX
	施策(小)	02 交通安全学習機会の充実			大業	XX
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町くらし安全まちづくり条例美幌町交通安全総合対策本部設置規程			経費区分	政策的経費	
事業概要	各自治会、老人クラブや幼稚園・保育園・学校などに交通安全教室等の学習機会を提供し、特に事故の多発する自転車運転のルールやマナーについて若年層並びに高齢者への指導、啓発を強化する。(一般指導員の報酬)					
事業目的	交通安全ルールの意識高揚					
事業の対象	町民					
実施結果	【実施結果】 各小学校、各保育園・幼稚園への交通安全教室等の実施、交通安全運動期間等での啓発活動を実施。					
現状と課題	【現状と課題】 指導員の高齢化に伴う啓発・教室への参加動員数が減る					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,563	1,675	1,706	1,621	1,795	1,795
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,563	1,675	1,706	1,621	1,795	1,795
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,563	1,675	1,706	1,621	1,795	1,795

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	一般指導員数	目標	人			14	14	14
		実績	人	13	13	13		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	交通安全教育・普及啓発活動を推進するためには、関係機関・団体、地域の継続的な活動が必要であり妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	交通安全指導員は、交通安全教育や普及啓発活動で重要な役割を果たしており有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	一般交通安全指導員の活動に対する負担であり適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き各小学校、各保育園・幼稚園への交通安全教室、交通安全運動期間等での啓発活動を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状通りの事業のため予算額を維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	交通運動期間中や交通安全教室での指導等の強化							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		高齢者交通安全推進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ交通安全担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	02 交通安全活動の推進			目	07 交通安全費
	施策(小)	03 高齢者の交通安全対策の推進			大事業	01 交通安全対策推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町くらし安全まちづくり条例美幌町高齢者等運転免許自主返納支援事業実施			経費区分	政策的経費	
事業概要	高齢者の免許自主返納を促進し、高齢者の交通事故を未然に防ぐ					
事業目的	高齢者の交通事故を未然防止					
事業の対象	自動車運転免許証を自主返納した65歳以上の方又は障がい者手帳の交付を受けていて自動車の運転が困難な方					
実施結果	【実施結果】 公共交通バス・タクシー利用券を交付					
現状と課題	【現状と課題】 自主返納は定着してきているが、高齢化の進展に伴い高齢者の免許保有者は微増となっている。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	3,040	2,000	2,060	2,400	2,400
国支出金	-	0	0	0	0	0
道支出金	-	0	0	0	0	0
地方債	-	0	0	0	0	0
その他	-	2,065	2,000	2,060	2,400	2,400
一般財源	0	975	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	3,040	2,000	2,060	2,400	2,400

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	免許自主返納	目標	件			100	100	120
		実績	件			152	103	
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者の事故防止のために町が補助することは妥当					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	高齢運転者やその家族など、高齢者の交通事故を考える機会と交通事故防止に有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自主返納の契機となっており、返納時1回限り助成で適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 高齢の運転者の増加が見込まれ、それに伴い自主返納者も増加が見込めるため、事業を拡大					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 過去の実績を勘案すると共に、自主返納者の増加を見込み予算額を増額			予算反映額 (概算)	400千円		拡充
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		広域連携事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立			項	01 総務管理費
	施策(中)	09 広域行政の推進			目	05 企画費
	施策(小)	02 広域連携事務事業の更なる推進			大業	03 広域連携事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	○		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	地域の活性化、認知度向上につながるよう広域的な課題に対する要望事項の調整や近隣市町との相互支援、連携の充実を進める。 また、更に連携する地域や業務拡大の検討を行う。					
事業目的	広域連携事務・事業の連携及び強化を図ることにより、行政課題の解決や近隣市町との振興につなげる。					
事業の対象	美幌町や近隣市町の住民、行政機関。					
実施結果	【実施結果】 管内市町村及び道内市町村（田舎活性化協議会構成自治体）による協力連携事業の実施。					
現状と課題	【現状と課題】 新たな連携や業務拡大の検討が全く進んでいない。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	265	265	1,097	946	1,094	1,100
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	265	265	1,097	946	1,094	1,100
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	265	265	1,097	946	1,094	1,100

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	期成会要望活動	目標	回		2	2	2	2
		実績	回	2	2	2		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域の活性化、広域的な課題等に対する要望事項の調整や近隣市町との相互支援、連携の充実などについて、町で実施するのは妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	管内の市町村及び管外市町と、共通に抱える課題等の解決に向けて連携を図ることは有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	管内市町村との連携、特にオホーツク圏活性化期成会及びオホーツクイメーজ戦略に関しては、広域連携による効率性は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 管内及び管外の自治体との広域連携を継続する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 新規事業等もないため予算についても現状維持。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	北海道田舎活性化協議会に関しては資金（運営費）不足が懸念されており、協議会構成メンバーによる協議により解決策などの方向性を示す必要がある。							



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		まちづくり推進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	01 町民主権による自治の推進			目	05 企画費
	施策(小)	01 自治基本条例の適正な運用			大事業	01 政策推進事業
事業期間	終期未定		平成23年度～			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町自治基本条例			経費区分	政策的経費	
事業概要	平成23年4月に施行した自治基本条例に基づき情報共有及び町民参加等を推進するため、自治推進委員会を開催するとともに、「まち育新聞の発行」や「まち育出前講座」等の利用促進を図る。					
事業目的	町民と行政との情報共有。 町民と行政の協働によるまちづくりを推進。					
事業の対象	美幌町民、行政職員					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 自治基本条例の管理及び自治推進委員会の運営。 「まち育新聞の発行」、「まち育出前講座」等の推進。 【現状と課題】 条例が施行されて5年が経過したが、町民及び職員への認知度が薄い。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	323	298	282	146	281	285
国支出金	0	0	0	-	0	0
道支出金	0	0	0	-	0	0
地方債	0	0	0	-	0	0
その他	0	0	0	-	0	0
一般財源	323	298	282	146	281	285
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	323	298	282	146	281	285

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	まち育新聞の発行	目標	回			1	2	2
		実績	回	1	1	2		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	自治基本条例を推進する上からも妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町民への情報の発信・共有という観点から有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	最小限の経費で事業を推進しており効率性は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 自治基本条例の見直しについて、自治推進委員会において検討を行う。また、まち育新聞については、前年度(平成29年度)同様2回の発行を予定。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 自治推進委員会の開催及びまち育新聞の発行は前年度(平成29年度)同様で新規事業実施の予定はない。		予算反映額(概算)	0千円	現状維持		
今後の改善点	自治基本条例の周知拡大、まち育新聞の発行回数が増							



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		政策推進事務		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	00		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	00			項	01 総務管理費
	施策(中)	00			目	05 企画費
	施策(小)	00			大業	01 政策推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	-
事業概要	政策担当事務の推進に必要な研修への参加や参考図書を整備する。					
事業目的	円滑な事務事業の推進					
事業の対象	担当職員					
実施結果	【実施結果】 国の制度や先進的な取組の調査及び検討。					
現状と課題	【現状と課題】 国から人口減少対策などの様々な施策の情報は入るが、当町では事業化が困難で、ほぼ現状維持にとどまっている。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	88	2,264	76	3	76	76
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	88	2,264	76	3	76	76
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	88	2,264	76	3	76	76

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	各種制度説明会等参加回数	目標	回		2	2	2	2
		実績	回	3	1	0		
		達成率	%		50	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町の施策を推進するにあたり、町職員が適当な研修等へ参加することは妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	適当な研修等を参加することは、人材の育成につながり有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	適当な研修等を参加することは、人材の育成につながり効率性は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 町施策推進に必要な研修等への参加。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 事業の方向性が現状維持であるため、予算についても現状維持			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	適当な研修会等が見つからない状況ではあるが、情報収集等に努め、適当(有効)な研修会等を見つけることが必要。							

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		行政改革推進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立			項	01 総務管理費
	施策(中)	06 行政改革の推進			目	05 企画費
	施策(小)	01 行政改革実施計画の推進及び行政改革大綱の策定			大事業	02 行政改革推進事業
事業期間	終期未定		昭和61年度～			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	効率的、効果的な行政経営の実現に向けて、平成28年度に「美幌町行政改革大綱（第4次）」を策定するとともに「実施計画（H28～H30）」の策定及び進捗管理を行う。					
事業目的	より一層効率的で効果的な行政経営を推進する。職員の意識改革が醸成し、町民サービスが向上する。歳出の抑止。					
事業の対象	美幌町、行政職員					
実施結果	【実施結果】 「実施計画（H28～H30）」の進捗管理及び行政改革の推進。					
現状と課題	【現状と課題】 平成15年度よりアウトソーシング推進計画に伴い、歳出の削減を図ってきたが、限界がみられる。今後は、新たな財源の確保に努めたい。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	190	297	168	45	2,210	300
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	190	297	168	45	2,210	300
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	190	297	168	45	2,210	300

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	実施内容達成率（一部実施以上）	目標	%		80	90	100	100
		実績	%	85	82.5	89.6		
		達成率	%		103.12	99.56		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	行政評価については、自治基本条例上、町が実施することになっていることから妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	効果的かつ効率的な行政運営を行うためにも「行政評価」についての有効性は高い。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	「行政評価」についての有効性が高い一方で、評価する側（原課）における事務（システム入力）の簡易化などについての効率性					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 行政評価支援システムの改修					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 行政評価支援システムの改修に要する経費について増額			予算反映額 (概算)	1,977千円	拡充	
今後の改善点	行政評価の結果を予算、事務及び事業へ反映できるよう確立するとともに、行革推進委員会を活用して外部から評価をもらいながら行政改革大綱に基づいた行政改革を推進する。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		ふるさと寄附金事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立			項	01 総務管理費
	施策(中)	05 健全な財政運営の推進			目	05 企画費
	施策(小)	02 財政基盤の強化と効率的な財政運営			大事業	01 政策推進事業
事業期間	終期未定		平成20年度～			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	「ふるさとを思う ころろが届く 美幌町ふるさと寄附金」取扱要綱				経費区分	政策的経費
事業概要	財源確保の一環として、町外者を対象とするふるさと納税制度「ふるさとを思う ころろが届く 美幌町ふるさと寄附金」の充実を図る。					
事業目的	町の財源確保、町外者への地元特産品等のPR。町への還元、町活性化。					
事業の対象	美幌町					
実施結果	【実施結果】 寄附者には、謝礼品として美幌町特産品等を贈呈する。					
現状と課題	【現状と課題】 寄附者が増えることによる処理業務の繁雑化。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	79,224	39,413	30,869	29,602	26,367	26,400
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	78,633	38,707	30,000	28,783	25,000	25,000
一般財源	591	706	869	819	1,367	1,400
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	79,224	39,413	30,869	29,602	26,367	26,400

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	寄付件数	目標	件			2,800	1,300	1,100
		実績	件	3,211	1,710	1,096		
		達成率	%		61.07	84.31		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町の財源確保対策及び町のPRを行う上からも妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	低い	平成27年度実績で81,633千円あったふるさと寄附金は年々減少傾向にあるため、謝礼品のあり方やPR手法など見直す。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	受付から謝礼品の発送までを委託し、インターネット受付やクレジット決済も導入していることから効率性は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 「ふるさと寄附金」を活用した町の事業のホームページ掲載、アンケート実施(特産品付き)によるリピーター確保対策などを実施予定。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減 年々「ふるさと寄附金」が減少し、謝礼品に係る経費も減少しているため。		予算反映額(概算)	△4,500千円		改善	
今後の改善点	宣伝方法や謝礼品を見直して新規及びリピーターの増加(確保)を図る。また、返礼品の見直しだけでなく寄附金の活用方法によって寄附者が集えるよう中身を見直す。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		町史編さん事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01 総務管理費
	施策(中)	01 町民主権による自治の推進			目	05 企画費
	施策(小)	03 自治基本条例に基づく協働のまちづくりの推進			大業	01 政策推進事業
事業期間	4年度		平成26年度～平成29年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	平成29年度に、美幌町開基130年を記念して、「美幌町百年史」以降の約30年間分を記録した「美幌町史（昭和62年～平成27年）」を編さんする。					
事業目的	先人の偉業を振り返り、郷土の誇りを再認識するとともに、協働のまちづくりを推進する					
事業の対象	美幌町、町民					
実施結果	【実施結果】 町史の発刊及び町民参加の記念事業の開催					
現状と課題	【現状と課題】 町史編さんは、専門的な知識・技術・経験を必要とすることから、実績が豊富な外部業者に委託することが望ましい反面、多額な事業費がかかる。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	11,204	12,264	9,138	9,605	0	0
国支出金	0	-	-	-	0	-
道支出金	0	-	-	-	0	-
地方債	0	-	-	-	0	-
その他	0	-	-	-	0	-
一般財源	11,204	12,264	9,138	9,605	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	11,204	12,264	9,138	9,605	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	町史編さん進捗率	目標	%		75.4	100		
		実績	%	39.5	75.4	100		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌130年記念事業の一環として、前回の100年史からの30年間分の史実を将来に残すため町が作成するため妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	契約期間内に完成したため。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	適正な人数での実施により適正である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止 平成29年度で事業完了したため。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減 平成29年度で事業完了したため。			予算反映額 (概算)	0千円		休止・廃止
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		空き家対策事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	06 住宅環境の整備			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 空き家対策			目	05 企画費
	施策(小)	01 空き家の実態把握			大事業	01 政策推進事業
事業期間	終期未定		平成29年度～			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	空家等対策の推進に関する特別措置法			経費区分	政策的経費	
事業概要	関係団体及び関係部局と連携を図り、適切に管理されていない老朽家屋等の把握を行う。					
事業目的	空き家を適正に把握する。					
事業の対象	町内にある老朽家屋（空き家）等					
実施結果	【実施結果】 現地調査等					
現状と課題	【現状と課題】 調査には多くの時間と労力が必要である。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	3,420	2,416	200
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	0	0	0	3,420	2,416	200
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	0	3,420	2,416	200

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	対象区域内の実態把握進捗率	目標	%			100	100	100
		実績	%		0	100		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	全国的に問題となっている空家等対策については、町で実施すべき事項であり妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	空家等対策には、まず実態把握が必要であり、市街地区域における実態調査については有効性が高い。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	外部委託は行わず、職員による実態調査であったことから効率性は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 空家等対策協議会を設立し、「美幌町空家等対策計画」を策定する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減 空家等対策の事務等に係る臨時職員については、9か月雇用とするため減額とする。			予算反映額 (概算)	△1,000千円		改善
今後の改善点	今後における空家等対策については「美幌町空家等対策計画」に基づき実施する予定だが、実施に向けた体制整備を検討する必要がある。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		美幌130年記念事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	00		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	00			項	01 総務管理費
	施策(中)	00			目	05 企画費
	施策(小)	00			大事業	01 政策推進事業
事業期間	単年度		平成28年度～平成29年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	-
事業概要	平成29年10月12日に町制施行130年を迎えることから、記念祭及び記念事業を実施する。					
事業目的	130年という節目に記念祭及び記念事業等を実施し、町民の皆さんお祝いムードを高める。					
事業の対象	町民					
実施結果	【実施結果】 130年記念祭及び記念事業等を実施する。					
現状と課題	【現状と課題】 予定していた事業は全て実施された。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	1,223	0	0
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	0	0	0	1,223	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	0	1,223	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	記念事業数	目標	事業			3		
		実績	事業		1	3		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	戸長役場を開設してから130年の記念に実施するものであり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	ロゴマーク募集や高校生議会の実施など、美幌130年の機運の醸成ができた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	当初の計画に基づき最小限の経費で事業を実施した。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止 平成29年度で事業完了		評価結果
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減 平成29年度で事業完了		
		予算反映額 (概算)	0千円	休止・廃止
今後の改善点				



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		移住定住促進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	03 国際・国内交流の推進			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 移住・定住の推進			目	05 企画費
	施策(小)	01 移住・定住受け入れ体制の推進			大業	01 政策推進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	平成27年7月より運用を開始している「移住体験住宅・四季彩美幌」を活用した「ちょっと暮らし」の推進を図るとともに、東京都等で開催されている「北海道暮らしフェア」等により本町PRを積極的に行い、移住及び二地域居住の促進を図る。					
事業目的	本町の「暮らし」体験を通じて、移住若しくは二地域居住につなげる。					
事業の対象	移住を考えている町外在住者					
実施結果	【実施結果】 ホームページや都市部におけるイベントに参加し移住希望者へPR活動を行う。、					
現状と課題	【現状と課題】 ・移住体験希望者は多数いるが、移住体験住宅が1棟のためニーズに応えられていない。 ・移住体験者の内、60歳以上の方は「完全移住」又は「二地域居住」に結びつのが難しい。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	190	1,020	970	869	0	1,050
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	44	190	189	306	0	229
一般財源	146	830	781	563	0	821
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	190	1,020	970	869	0	1,050

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	移住体験者(組)	目標	組			6	10	10
		実績	組	2	9	13		
		達成率	%			216.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地方創生の観点からも「移住定住促進事業」は妥当である					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	移住体験者から「移住」につながっており有効性は高い					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	移住体験者から「移住」につながっていることなどから効率性は高い					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現行の「移住体験事業」等の事業を実施するとともに、「関係人口」創出事業(総務省のモデル事業：北海道ほか道内7市町村との連携事業)を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 新規事業として「関係人口創出事業」を実施するが、モデル事業として全額北海道負担のため、予算については現状維持。			予算反映額(概算)	0千円		改善
今後の改善点	「移住体験」希望者が多く、現状の「移住体験住宅」の増棟について検討を要する。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		地域おこし協力隊事業		グループ・担当名	まちづくりグループ政策担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立			項	01 総務管理費
	施策(中)	04 美幌版総合戦略の着実な推進			目	05 企画費
	施策(小)	01 美幌版総合戦略の随時見直しによる効果的な実施			大事業	01 政策推進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	平成29年度より「地域おこし協力隊」の本格導入（採用）を行い、隊員による地域協力活動によって地域おこしの支援や活性化を図るとともに、隊員の定住定着を図る。					
事業目的	地域おこし協力隊員という外部の力を借りて地域おこしの推進を図るとともに、隊員の定住定着を図る。					
事業の対象	地域おこし協力隊員関係諸団体					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 地域おこし協力隊の募集、採用 隊員が行う地域協力活動（事業）の協議検討 ----- 【現状と課題】 地域おこし協力隊員のフォローのあり方等					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	1,517	1,523	1,517	5,847	14,000
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	0	1,517	1,523	1,517	5,847	14,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	1,517	1,523	1,517	5,847	14,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	協力隊員の定着率	目標	%			100	100	100
		実績	%	0	0	0		
		達成率	%			0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域おこし協力隊員については、町で任用（委嘱）することになっており妥当である。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	平成29年度においては隊員の任用に至らなかったが、行政では手の届かない「地域おこし」活動の観点や、移住定住を見据えた観点				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	「地域おこし協力隊」については、特別交付税措置により概ね一般財源の持ち出しがなく、効率性は高い。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 平成30年度に地域おこし協力隊員1名を任用。初代「地域おこし協力隊員」（H30～32年度予定）は、観光振興を中心とした地域おこし活動を行う。					評価結果  拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 平成30年度において「地域おこし協力隊員」1名が採用に至り、人件費及び活動費を計上。			予算反映額 (概算)	4,300千円		
今後の改善点	隊員が定着した場合、移住・定住につながり地方創生に資する事業であるため隊員の募集が重要となるが、地域おこし活移動の提案が少ない状況であるため、原課において募集可能な「地域おこし協力隊」の活動について検							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業		グループ・担当名	まちづくりグループ計画担当	
				評価者名	総務部長 広島 学	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立			項	01 総務管理費
	施策(中)	04 美幌版総合戦略の着実な推進			目	05 企画費
	施策(小)	01 美幌版総合戦略の随時見直しによる効果的な実施			大事業	01 政策推進事業
事業期間	5年度		平成27年度～平成31年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	まち・ひと・しごと創生法			経費区分	政策的経費	
事業概要	<p>まち・ひと・しごと創生法に基づき、美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少への対応や地方創生などを推進していくため、総合戦略に位置付けた施策の推進・改訂を行う。</p> <p>また、「美幌版総合戦略」に基づいた『まちづくり参画プロジェクト』の推進を図る。</p> <p>さらに「北海道田舎活性化協議会」の構成自治体と連携し、『就業・暮らし体験事業』を実施する。</p>					
事業目的	<p>美幌町の人口減少を少しでも食い止めるため、産業分野、移住分野、子育て分野、まちづくり分野において、それぞれの施策目標を達成する状態を目指す。</p> <p>“学生ならではの”の意見、アイデアにより、住み続けたいと思えるようなまちづくり活動を推進する。</p>					
事業の対象	美幌町民					
実施結果・現状と課題	<p>【実施結果】 美幌町まち・ひと・しごと創生本部及び創生推進委員等の意見を元に策定するとともに、美幌版総合戦略の着実な事業の実施、効果検証、改善を推進する。</p> <p>【現状と課題】 計画に基づき実施しているが、人口減少に歯止めがかからない。</p>					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	3,213	932	1,287	0	0	0
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	3,213	932	1,287	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	3,213	932	1,287	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	まち・ひと・しごと創生推進委員会開催回数	目標	回			6	6	6
		実績	回	6	6	5		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	まち・ひと・しごと創生法に基づく事業であり実施主体は町が妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	各施策が地域の活性化に寄与しているため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	総合戦略に基づき町が実施している各施策は、適正な経費で行われている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						現状維持
				予算反映額 (概算)	0千円			
今後の改善点	PDCAサイクルを通じた効果検証及び改善を行うとともに、美幌版総合戦略の着実な推進を図る。							